

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(平成28年度)

2. 分野等別状況 (1) 国際戦略総合特区(5/7)

	評価区分(※)	総合評価 (IとIIとIIIを1:1:2の割合で計算)	I	II	III	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
			目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
北海道フード・コンプレックス国際戦略総合特区 (北海道、札幌市、江別市、函館市、帯広市、音更町、士幌町、上士幌町、鹿追町、新得町、清水町、芽室町、中札内村、更別村、大樹町、広尾町、幕別町、池田町、豊頃町、本別町、足寄町、陸別町、浦幌町、北海道経済連合会)	正	4.0	4.0 <u>進捗度</u> ・特区が関与した食品の輸出額・輸入代替額等 82%	3.8 <u>規制の特例等</u> ・農業経営改善自家用貨物自動車活用事業 等 <u>財政支援等</u> ・食品安全性・有用性研究評価センター機能の整備 等 <u>地域独自の取組</u> ・密閉型実証研究植物工場の創設 等	4.0	<ul style="list-style-type: none"> ・フード特区機構を中心に幅広い方策が検討されており、以前と比較して格段に実績を上げている。ハラール認定の取得も評価できる。 ・全国レベルの農産物輸出の増加に比べ、この特区の伸びは大きいと言えない。 ・農産物輸出に向けた準備が進んでいるが、それらに関わる商業ネットワークの形成が遅れている。早急な進展が望まれる。 ・財政支援等が一部を除いて初年度に集中しており、継続的な利用があまりなされていない。

※「正」とは平成28年3月末までに計画が認定された地区の評価、「準」とは平成28年3月末時点では計画が認定されていない地区の評価を意味する。